

第24回庭野平和賞贈呈理由

仏教慈濟基金會を創設した證嚴法師は台湾の花蓮にある小さな寺の住職であり、同時に500人以上のスタッフに支えられた世界最大規模の仏教ボランティア団体の会長でもあります。さらに、法師は高水準の医療チームを抱える仏教慈濟総合病院のほか、いくつかの教育機関の創立者でもあります。

仏教慈濟基金會は、当時非常に貧しい人びとが住んでいた台湾東部の海沿いにある普明寺の中に、證嚴法師により1966年に設立された非営利団体です。30名の主婦が人助けのために食料品を買うお金を出し合ったことがそのはじまりでした。また、台湾から離れた地域に住む慈濟基金會のボランティアたちにより、1985年から海外拠点が作られるようになりました。彼らは自分たちの地域で集めた募金を、その地域で困っている人たちの救済に使ったのです。今では慈濟基金會の支援者の数は500万人を超えています。

1991年にバングラデシュを襲ったサイクロンによる被害者への援助は、仏教慈濟基金會による国際援助活動の嚆矢となるものでした。以来、同基金會は時間や距離、そして文化や政治体制の違いを乗り越えながら、戦争、洪水、早魃、地震等による被害者に緊急援助とともに希望を送り届けてきました。現在までに、57カ国の人びとが慈濟基金會による援助の対象となりました。災害の被害者たちに対して、慈濟基金會は自立と自らの手による社会の再建に向けた相互援助を奨励しています。慈濟基金會の最終目標とされているのは、災害被害者自身に対しても力があるときには他の人びとに貢献しようとする気持ちを喚起し、ともに大きな慈愛に支えられた地球村の建設を目指すことなのです。

つまり、仏教慈濟基金會は精神面と慈善活動を兼ね備えた組織であると言えます。困っている人びとに物質的援助を行いながら、与える側と受ける側の両方に慈悲の心を育むこと、その両方に重きをおいているのです。その活動は、国際的災害援助、骨髄バンク、環境保護、地域のボランティア活動の四分野で特に活発に行われています。また同基金會は、慈善活動、医療、教育、環境保護、人間の尊厳の向上、地域のボランティア活動を、自らの活動の中心に位置づけています。

仏教慈濟基金會は多くの人びとから少しずつ募金を集め、そのお金を貧しい人びとや災害被害者の救済活動に充てています。台湾で、ある貧しい家庭の主婦たちが毎日僅かな金額を募金していたところ、月一回まとめて募金をした方が良いのではと意見を言う人がおり

ました。それに対する證嚴法師の言葉は、毎日ほんの少しずつでも募金することで、月に一度だけでなく、毎日慈悲の心を持つことができる、というものでした。

仏教慈濟基金會の使命は主として災害援助と医療に関連していますが、證嚴法師は「他人への愛の欠如」がこの世界に存在する多くの問題の原因となっていると感じています。思いやりや慈悲、そして喜びに満ちた平等な社会の実現を心に描きながら、證嚴法師は当初からすべての人びとへの奉仕を決意してこられました。「世界を救うには、心の変革から始めなくてはならない」と證嚴法師は話していますが、そうした法師の構想と慈悲の心、そして慈濟基金會の活動は世界平和に向け大きな貢献をしているのです。

證嚴法師が庭野平和賞の受賞者に選ばれたことには、いくつかの特別な理由があります。

その第一は、伝統的な仏教の教えと精神を、今日の状況に即しながら貧しい人びとの救済活動に導入したことです。仏教が理想とする徳目は慈悲であり、布施は六波羅蜜の一つに数えられます。救済基金を募りボランティア活動を行うことは、大乘仏教の根幹をなす重要な修行であるという解釈が行われているのです。

法師は篤信を旨とする伝統仏教の出身ではありますが、伝統的な教えや修行のありかた、とりわけ仏教を「忍苦」の教えとする考えかたには満足できませんでした。法師は両親の病気を通して、貧しい者は病気になってもまともな治療を受けることさえできないことを知ったのでした。概して仏教には、瞑想によって得られる心の状態だけを重視して、世俗の世界における変化の重要性を無視しがちな点があります。しかし證嚴法師は、医学的にも経済的にも困難な状況に置かれて苦しんでいる貧しい人びとに対して、救いの手を差し延べる必要を感じました。方便の力によって、法師は仏教の教えを普通の主婦にもできるような日頃の行いに変えたのです。

第二に、法師は仏教と医療との間にあった伝統的な関係を変えるという意義ある貢献をされました。伝統的な仏教寺院には仏や菩薩の像が安置され、訪れる人びとの心を癒しています。しかし證嚴法師と法師が設立した団体の人びとは、現代的な西洋医学を貧しい人びとに供給することによって、貧しくても医療の恩恵を受けることを可能にする施策に重点的に取り組んだのです。

第三は、法師が世界最大規模の慈善団体を創立し、かつ監督するたいへんカリスマに富んだ女性であることです。この運動は法師の非凡な人格と意思決定に負うものであります。

法師は信者たちにとってインスピレーションの源であり、また彼らの多くは法師のことを観音菩薩の生まれ変わりと考えています。

第四は、法師が尼僧として多くの出家や在家の女性の心を惹きつけていることです。仏教慈濟基金会はその支援者の大多数がボランティアの尼僧や在家の女性信者であることから、まずなによりも女性の組織とすることができます。法師は戒律を厳守し、伝統の中で重視されてきた厳しい修行も経験された傑出した尼僧であり、その高潔な人格は多くの女性を惹きつけています。

第五は、仏教慈濟基金会が政治色のないボランティア活動を指向する団体であることです。私たちは、同基金会が著しい成功をおさめた理由は、現代の効率的な組織運営と台湾の伝統の中に息づく仏教や儒教に根ざしたボランティア精神を融合した点にあると考えています。法師もまた信者たちも、仏教は決して政治的であってはならないという立場をとっています。こうした立場は多くの人びとの支持を得るものと思います。というのも、政治に関わる僧侶や尼僧に対して人びとは得てして批判的であるからです。證嚴法師も慈濟基金会も政治家や政府に影響力を行使しようという意思を持ち合わせておらず、また政府助成金に対する関心もまったくありません。社会の構造改革を強調するかわりに、法師は儒教や仏教が理想とする徳に満ちた社会の実現を心に描いているのです。

以上の理由から、この偉大なる女性、證嚴法師が本年度の庭野平和賞の受賞者に選ばれたことを、私たちは誇りに思っております。